

お酒の楽しみ

AtoZ

vol.01

こんな私にSAKEがした!?

にいがた美醸 主宰 **村山 和恵** 氏



はじめまして!

こんにちは。日本酒を楽しむ女性コミュニティ「にいがた美醸（びじょう）」を主宰する村山和恵と申します。今回から大好きな日本酒およびそれらにまつわるアレコレを書き綴ってまいりますので、よろしくお願ひします。今回は初回ですので、自己紹介と活動内容の紹介をいたします。

まずは前半自己紹介からです。私は新潟出身の父と秋田出身の母との間に生まれ、当時父が働いていた秋田市で誕生し、幼少期を過ごしました。その後、父の実家である新潟市秋葉区（当時は新津市）で育ち、そこから現在に至るまで新潟市で過ごしています。秋田は親戚や幼馴染、知人もいることから、年に3~4回は足を運んでいましたが、コロナ禍ですっかりご無沙汰してしまいました。

新潟と秋田といえば、成人一人当たりの清酒消費量が全国1位と2位であり、いずれも美酒に恵まれた県です。秋田の家はすぐ近所に酒蔵があり、蔵の佇まいや軒先に杉玉がかかっている光景を日常的に見ていましたし、新潟に移り住んでからは、祖父が毎晩1合のお燗酒を晩酌時に楽しんでおり、赤い顔でご機嫌な祖父の様子や燗酒の匂いに子供のころから接していました。

PROFILE

村山 和恵 (むらやま かずえ)

秋田生まれ新潟育ち。短大で教員を務めるかたわら、日本酒好きが高じて資格を取得し、講習会やイベント、執筆に関わるほか、日本酒の楽しさを多くの女性と分かち合いたいとの思いから、2009年から女性のための日本酒コミュニティ「にいがた美醸」を主宰している。2013年よりにいがた観光特使、2014年には女性としては新潟県初の「酒サムライ」に叙任。2020年に小笠原流礼法の師範を取得するなど、活動の幅を広げている。

にいがた美醸ウェブサイト

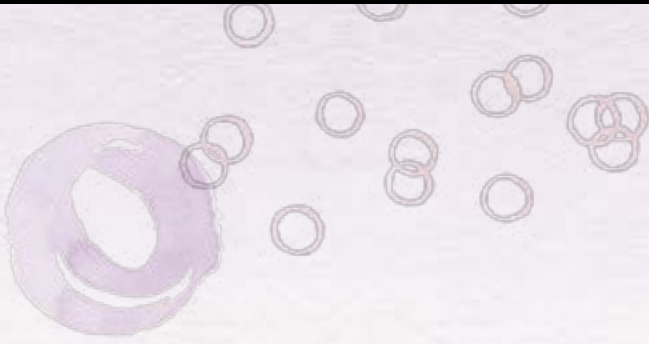
<http://www.niigatabijo.com/>

村山和恵ブログ~酒サムライ・かずえの日本酒一合一会

<https://ameblo.jp/love-ricewine/>

お酒との出会いがくれたもの

幼少期から生活の中でお酒に触れる要素があった私でしたが、飲酒可能年齢になってからは甘めのカクテルやサワー系がアルコール飲料の入り口で、日本酒を飲んだのは、社会人になりたての頃でした。就職した企業では、先輩や上司とお酒の席をご一緒する機会がありましたが、ある時「新潟にいるのだから日本酒飲んでみたら?」と勧められ、試しにと飲んでみたら、香りがよくスッキリしていて、飲みやすい!と衝撃を受けたのです。そんな体験をきっかけに、少しずつ日本酒を嗜むようになりましたが、「差しつ差されつ」することで、普段あまり接点がない目上の方ともお話ができたことも嬉しく、コミュ



京都下鴨神社で行われた酒サムライ叙任式

ニケーションツールとしても最適だと感じました。

30代に差し掛かった頃ふと思ったのは、自分は日本酒が好きなのに知識をまったく持っていないということでした。そこで、勉強するつもりで「唎酒師」の資格を取得しました。知識がなくとも日本酒は美味しく楽しいのですが、知識を得るとさらに楽しくなるもので、その3年後には上級資格である「日本酒学講師」の資格を取得し、カルチャースクールで日本酒講座の担当、日本酒イベントのお手伝い、講演などの機会をいただきました。ありがたいことに、2013年には「にいがた観光特使」に、2014年には日本酒造青年協議会が日本酒や日本文化を幅広く広めようと尽力している人に与える「酒サムライ」に叙任されました。最近では、6年間学んできた小笠原流礼法の師範を取得し、日本人の持つ礼の心や日本文化を学び続けています。関連して、新潟大学で開講されている「日本酒学」の講義における「日本酒とマナー」のパートをお手伝いしています。

このように、日本酒は私に多くの世界を開いてくれる存在です。



ぼんしゅ館新潟驛店様にて10周年記念酒の先行販売

◆ にいがた美醸発足から現在まで

後半はにいがた美醸の発足から活動内容までを紹介いたします。日本酒を嗜むようになってから、周囲を見渡すと、日本酒を楽しんでいる友達がおらず、ひとりで飲みに出かけるようになり、馴染みのお店もできませんでした。

しかし、当時は女性がひとりカウンターで日本酒を手酌している姿が珍しかったのか、「物欲しそう」「寂しそう」「すぐ飲みそう」など不本意なイメージを持たれていたようです。その時私は、

「ここは酒どころ新潟なのだから、女性だっぴのびのび日本酒を楽しんだっていいじゃない!？」と思いました。そんな気持ちを抱いていたある日、馴染みのお店が開いたイベントに参加したところ、ある女性と意気投合し、飲み友達になりました。実は、それぞれがその店のカウンターでひとり酒をしており、「あの、いつも一人で飲んでいるな」と、お互いの存在が気になっていたのです(笑)。

少しずつ輪が広がり飲み友達が5人くらいになった頃、日本酒を楽しむサークル活動がしたいという話題から発足したのが「にいがた美醸」でした。発足の際に私が考えたのは「単に女性が集まって酔っぱらう会」にはしたくないということです。私も含め、参加する皆さんが、飲むだけ酔うだけではなく、なんらかの知識や学び(というと堅いですが)を得られるコミュニティでありたいということでした。

そんな私たちも、酒造業界や関係の方々にお世話になりながら、活動12年目を迎え、会員登録者数は現在120人程になりました。数を誇りたい訳ではありませんが、輪が広がったことを、うれしく思います。また、5周年、10周年という区切りの年には小千谷市の新潟銘醸さんにお力添えいただき、記念酒「おんな盛(ざかり)」を発売することができました。



酒蔵見学：仕込みについて説明を受ける



酔龍の活動：新潟縣護國神社での奉納演奏

◆ 酒蔵見学で育まれた地元愛

さて、にいがた美醸の主な活動は「テーマを設定したお酒の会」「部活動」「酒蔵見学」などですが、人気が高いのは「酒蔵見学」です。このところ、コロナ禍で足を運ぶことが叶いませんが、これまで約60蔵に足を運んでまいりました。酒蔵見学を重ねて感じたことは、メンバーそれぞれがお酒に対する愛着を強くしたことはもちろん、地域に対する愛着や誇りをも醸成できたということです。コミュニティ発足時には狙っていたわけではないので



酒芸部の作品：酒蔵の前掛けなどで作ったバッグ



蔵男・蔵女(くらだん・くらじょ)カレンダー

すが、なぜそうなったのか？考えてみると、酒蔵見学における2つの要因が影響していたものと思います。1つ目は、酒蔵とともに酒蔵のある地域を楽しむということです。見学は午前中に伺うことがほとんどですが、見学終了後の昼食では、かならずその地域のもを食べ、見学に訪れた酒蔵さんのお酒をいただくことにしています。2つ目は、可能な限り公共交通を利用し、最寄りのバス停や駅から歩いて伺います。新潟県内とはいえ、自分の生活圏とは異なるまちを歩くことは新鮮な体験ですし、徒歩だからこそ発見があります。ちょっと不便なほうが多くを体験できるため、より記憶に残るのです。

◇ 広がる楽しさ

「部活動」の中で盛んなのは和太鼓部「酔龍(すいりゅう)」と、「酒芸部(しゅげいぶ)」です。

「酔龍」は、会員のつながりで和太鼓を習う機会に恵まれたことがきっかけとなり、今年で7年目を迎えましたが、地域のイベントにお声掛けいただくなど、披露の機会をいただいています。「酒芸部(しゅげいぶ)」については、酒蔵さんのグッズをリメイクして楽しむ活動です。

楽しみが楽しみを呼び、2年前からは私たちが監修する酒蔵で働く素敵な「人」にフォーカスし、さらには酒造年度である7月から始まるユニークな「蔵男・蔵女(くらだん・くらじょ)カレンダー」の制作と発売も行っております。

このように、どんどん活動が多岐にわたっている私たちですが、「こうでなければならない」というガチガチな雰囲気はなく、メンバーがそれぞれのペースで自由に関わっています。そんな「ゆるやかさ」を大切にしながら、今後もほろ酔いの上機嫌で活動を楽しんでまいります。